

◇2015年度実施の国内修学旅行の実態とまとめ(高等学校)〈抜粋〉◇

この調査は2015(平成27)年度に実施された高等学校の修学旅行に関するものである。
 なお、調査は全国の国立・公立・私立等の高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	17	3,664	1,400	5,081
抽出校数	17	1,582	1,301	2,900
回答校数	3	677	350	1,030
回答率%	17.6	42.8	26.9	35.5

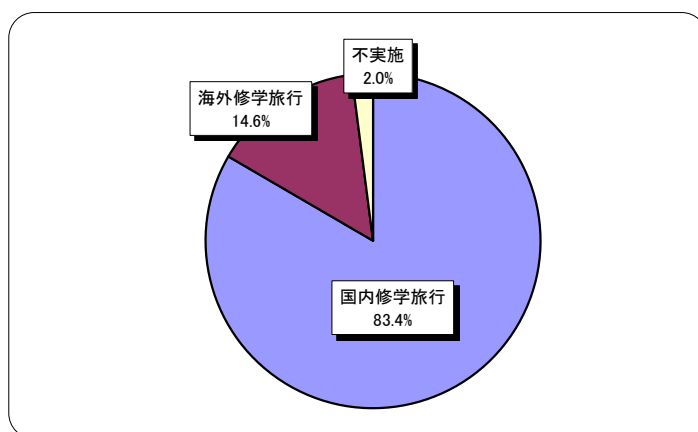
※ 回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1)実施状況(2)不参加者の理由(3)実施時期(4)実施学年(5)保健指導のための引率者
 (6)旅行日数(7)旅行費用(8)主な交通手段(9)旅行内容「活動、旅行先、見学先、行動形態、宿泊地等」
 (10)班別自主行動(11)体験学習(12)防災(避難)訓練の取り組み(13)食物アレルギー対策

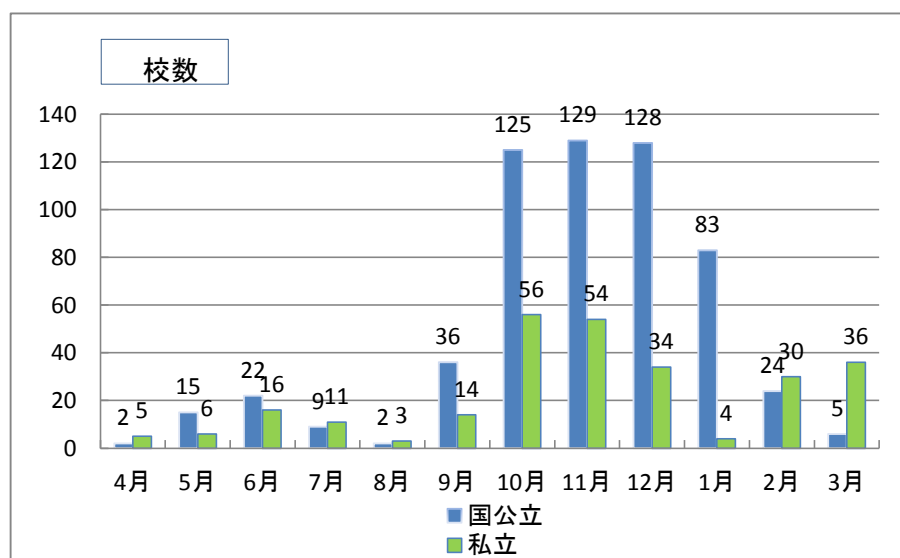
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック2016」をご覧ください。

1 修学旅行の実施状況



国内・海外を合わせた修学旅行の実施率は98.0%であり、前回(2014年度実施)の96.8%より上がっている。
 国内と海外の構成比で見ると、前回は国内が83.3%であったが今回は83.4%とほぼ同じで、海外が13.5%から14.6%で1.1%増えている。

2 国内修学旅行の実施時期

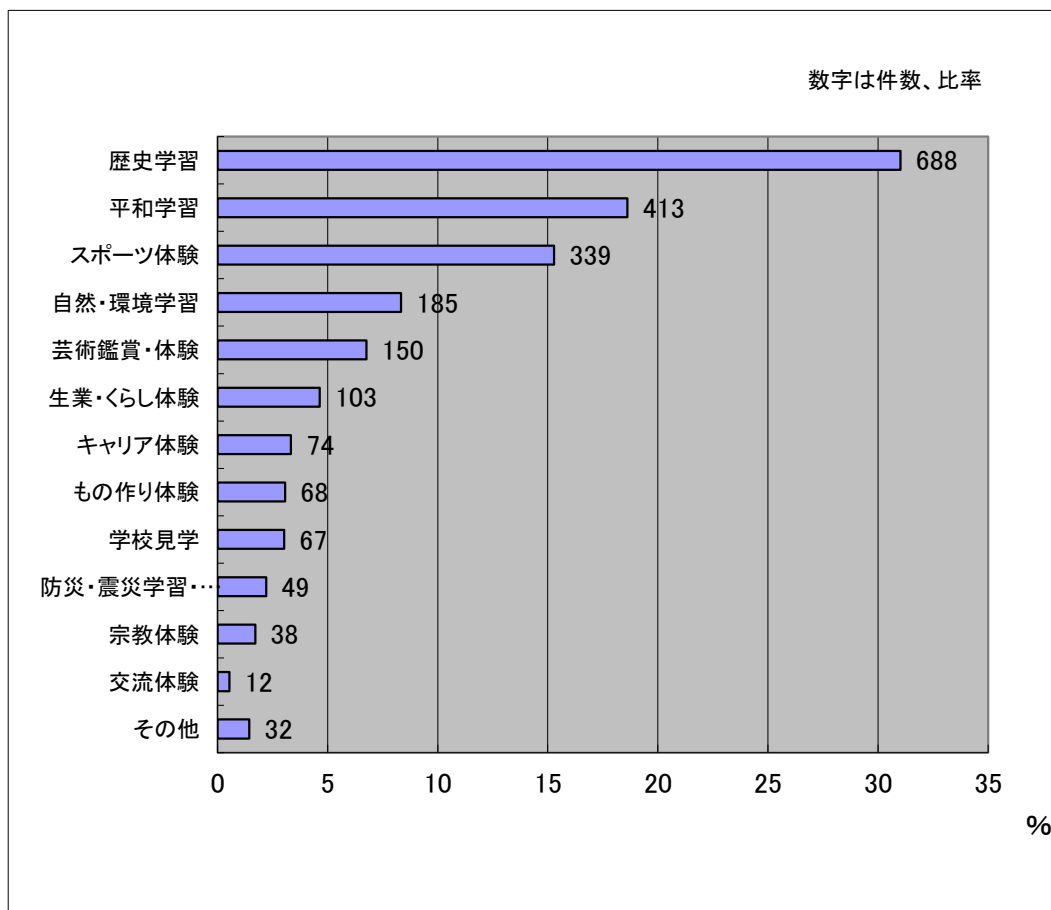


国内修学旅行の実施時期は、10月～12月に実施する学校が全体の61.9%を占めている。
 国公立校では10月～1月の実施校が年間全体の80.1%を占め、2月～3月の実施校は少ない。
 これはスキー修学旅行の減少が反映されているためと考えられる。

3 分類別旅行内容

重点をおいた活動の分類別件数比

(単位: 件数/比率)



国内修学旅行で重点をおいた活動を大きく分類し「歴史学習」関連や「平和学習」関連等で見ると、「歴史学習(史跡・町並・産業遺産・博物館の見学等)」に重点をおくものが688件と一番多く全体の31.0%を占めている。

続いて「平和学習」が413件(18.6%)、「スポーツ体験(スキー・ラフティング・カヌー等)」が339件(15.3%)で、この3分類内容で全体の65%を占める。

かつては主要な活動内容であった「博物館等の見学」や「美術館等の見学」は過去(2008年実施)では2位であったが、この数年で大きく順位が下がり、代わって「マリンスポーツ」や「環境学習」「田舎くらし体験」などが徐々に上がってきている。また、今回「防災・震災学習」が初めて入ってきた。



ラフティング(富山県)

写真提供: 富山県観光・地域振興局観光課



ナイトレイク&ホテル(榎ポップ、長野県)

写真提供: 長野県北安曇地方事務所商工観光建築課

4 都道府県別 旅行先ベスト20

順位	旅行先	件数	構成比%
1 (1)	沖縄	304	16.8
2 (2)	東京	206	11.4
3 (3)	京都	183	10.1
4 (4)	大阪	161	8.9
5 (5)	千葉	137	7.6
6 (6)	奈良	131	7.3
7 (7)	北海道	124	6.9
8 (8)	長崎	67	3.7
9 (9)	福岡	62	3.4
10 (10)	長野	61	3.4
11 (11)	兵庫	60	3.3
12 (13)	神奈川	53	2.9
13 (12)	広島	48	2.7
14 (14)	熊本	28	1.6
15 (16)	鹿児島	24	1.3
16 (15)	佐賀	20	1.1
17 (18)	新潟	11	0.6
17 (19)	山口	11	0.6
17 (24)	群馬	11	0.6
20 (30)	愛知	10	0.6
その他		94	5.2
合計		1,806	100.0

()順位は前回の順位

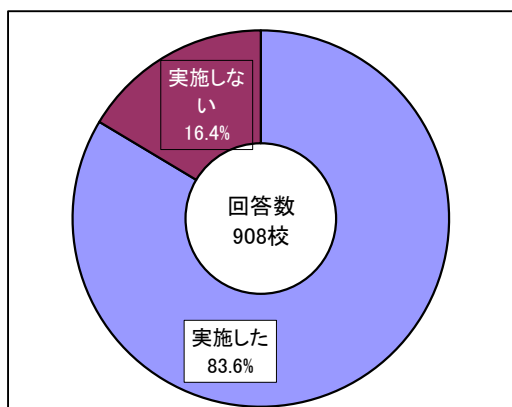
※総件数は1,806件

※滞在時間に関係なく訪問した都道府県をカウントした。

(旅行中、複数回滞在してもカウントは1とした)

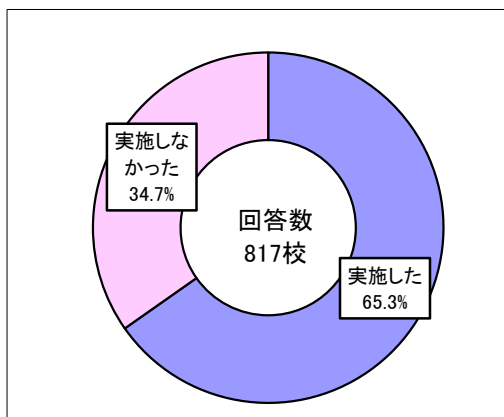
訪問した都道府県を滞在時間や訪問回数に関係なく旅行先としては1回としてカウントした。旅行先トップは前回に引き続き沖縄県で、2位東京都、3位京都府、そして大阪府、千葉県の順である。5位までの順位は3年間変わりが無い。沖縄県は平和学習やマリンスポーツ体験など、東京都は都心部班別行動、京都府は社寺などの歴史学習、大阪府、千葉県はテーマパークの人気が大きな要因であろうか。表にないが、東北は福島が7件、岩手2、宮城2件、秋田県1件、計16件となっている。東北各県へは九州から11件、関東(神奈川県)と四国(香川県)から各2件、中国(岡山県)から1件である。まだ震災の影響が残っているものと思われる。

5 班別自主行動実施率



班別自主行動の実施率は83.6%と高く、前回の82.7%、前々回の82.6%からさらに増えており、班別自主行動が修学旅行における一般的な学習形態として定着しているといえる。班別自主行動の場所では那覇市内(国際通り)が1位、2位京都市内、3位東京都内、4位長崎市内、5位小樽市内となっており毎年大きな変動はない。

6 体験学習実施率



体験学習を実施した学校は全体の65.3%であり、前回の57.6%から大幅に増加している。設置者別では国公立校の66.9%、私立校では61.8%が実施している。体験内容では、「スポーツ体験」が最も多く(42.9%)、中でもマリンスポーツ、ラフティングなどが人気が高い。続いて「農山漁村体験」(民泊体験)、「伝統工芸・物作り等」「料理・食品加工体験」と続く。体験学習の教育的効果は大きい一方では悪天候時の代替スケジュールや、体験学習の費用が高く経済的負担が大きいことなどの課題もある。